

# 古代ロマン息づくまち

縄文のビーナス 国宝指定30年

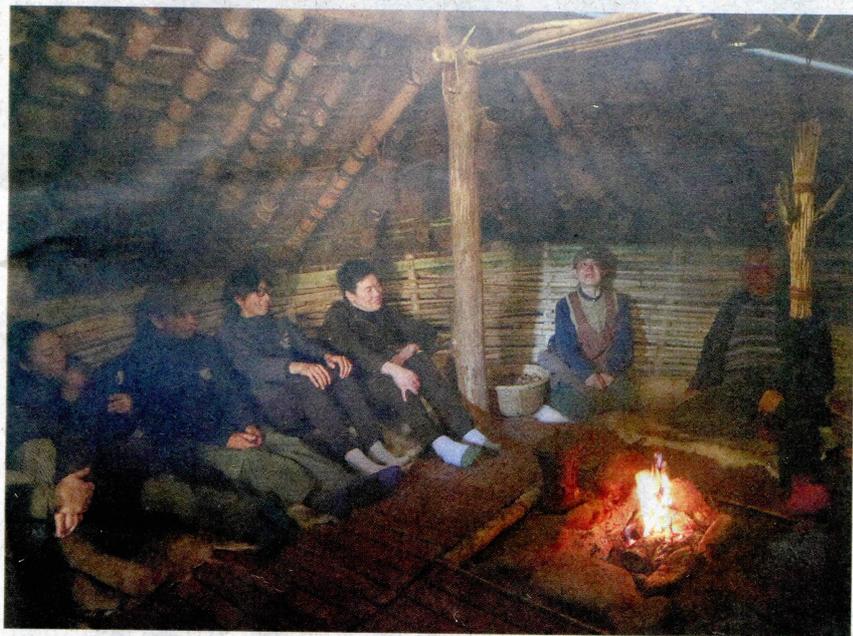


中

野市米沢の棚畑遺跡から16年に出土し、15日に国宝から30年の節目を迎えた土縄文の「ビーナス」。同じく国「仮面の女神」や数多くのを擁する同市では、これら遺産を貴重な地域資源と捉縄文時代の文化や精神性に学習と発信を重視する。田では、市内の文化財を含の日本遺産を周遊する構、新たな動きも出ている。文化の発信拠点として現任目を集めているのが茅野の建築家・建築史家の藤田さんによる設計の下、昨11月に市民ら合わせて2人が協力して与助尾根遺跡

## 縄文文化発信と観光

(同市豊平)の隣接地に建てた樹皮ぶきの竪穴住居「古過庵」。ちの観光まちづくり推進機構(DMO)が手掛ける旅行ブランド「ちの旅」のワークショップ(W S)を通じて建造され、今年4月には屋根の一部を改修、水場近くに作業場を新設した。今後は縄文の精神などを学ぶ体験型プログラムの実施会場として活用する構想。21日に始まる「月一縄文人」では▽石斧で木を伐採して樹皮を剥ぐ▽黒曜石



「古過庵」内で行われた「縄文体験」のワークショップ=2024年11月24日(ちの旅提供)

# 拠点活用しより広域展開

を用いて石器を作る▽カラムシから繊維を取って加工する▽火をおこしてジビエ料理などを調理するといったWSを通じて「縄文人」の生活や知恵に触れる。ちのDMOで「ちの旅」を手掛ける田子直美さんは「自然の中に身を置き、人間のちっぽけさを感じる中で、凝り固まった価値感をほぐし、古いけど新しい豊かさを出合っしてほしい」と話す。茅野市の今後の観光を見据える上で「日本遺産周遊」もキーワードとなる。同市の縄文のビーナスや尖石遺跡、八ヶ岳の黒曜石原産地(麦草峠)などは日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」の構成文化財に含まれている。日本遺産は文化や伝統を伝える有形・無形のさまざまな文化財群を地域の風習や伝承を

踏まえた「ストーリーパッケージ化」する文化制度で、観光振興への期待されていた一方、同体的な誘客に直結しなかったという。

そうした課題を解消。2023年5月には、Oを事務局に、県内で認定される4文化財の観光協会や自治体、計18団体で「信州4産周遊促進協議会」をストーリーの調査研究から、観光コースの策素材の制作、モニター企画などを進めた。

さらに、今年2月にオラムを松本市で開州への誘客・交流、その活性化につなげるため、1マに各地域の課題やについて情報共有した。文化財を活用した、よな観光促進に力を入れて針だ。